

第3回ふれあいチャリティーコンサート



県内外・中国・韓国等でも大活躍中の奈月&瑠美さん。透き通るような声でクリスマスソングや沖縄を代表する民謡「童神」を歌ってくれました。

視覚障害というハンデを抱えながらも前向きに音楽活動が続けている長毛の大成友弥君。12月23日、具志頭改善センターにおいて3回目となるチャリティーコンサートを開催した。友弥君を通して、みんなが夢や希望をもち、未来を明るく楽しく生きていけるようにと行われたコンサートには約450人の観客が詰めかけた。具志頭ゆかりの「汗水節」「えんどうの花」やオリジナル曲を熱演。また、友弥君が小学校3年生の時に演じた「丘の一本松」や「方言小話」も大盛況だった。さらに多彩なゲストとのコラボレーションはステージと観客が一体となって盛り上がった。



小さい時から歌が大好きという友弥君は、小学校の時に第13回シーポート北谷カーニバルの「丘の一本松」大会に出場し優勝。これを機に沖縄音楽にも興味を持ち音楽活動の道に進んでいく。

一昨年にはラジオを通して交流を深めてきた宮古島の地下地暁ブロードキャストより「ひとりじゃないから」でCDデビューを果たす。そして昨年7月には第2作目のミニアルバム「いのちのはな」をリリースし、成長著しい八重瀬町を代表するミュージシャンだ。



昨年7月にリリースした第2作目のミニアルバム「いのちのはな」は真和志高校と陽明高校の生徒15名が歌に合わせ手話を見せてくれました。



昨年全島エイサーにも出場した実力派の「ぐしちゃん青年会」友弥君との歌に合わせ息のあったエイサーを披露してくれました。

コンサートの運営には、多くの方のボランティアの協力がありました。スタッフ全員が友弥君のオリジナルTシャツを着て取り組みました。



今回のチャリティーコンサートはチケット制にし、収益金50万円を「八重瀬町」に寄付。中村町長も「この収益金は、町の福祉向上のために使わせていただきます」と感激の様子でした。



フィナーレはゲストの地下地暁さんと奈月&瑠美さんなど全員で「上を向いて歩こう」熱唱。会場全体が盛り上がりました。

